

第23回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年5月28日(火) 19時より21時

中央市民センター 会議室

参加者 18名

「楽天野球団の活動と挑戦～地域・ファンとともに」

講師 株式会社 楽天野球団 スタジアム部 部長 球場場 川田 喜則 氏



自己紹介

みなさん、こんにちは、楽天野球団の川田です。まだスタジアム部を担当して一年半もたっておりませんが、栃木県栃木市出身の39歳です。大学は理工学部を卒業しゼネコンに勤め途中から会計事務所に転職し約5年間楽しくつとめました。その後楽天経理部に転職、2008年に楽天野球団から必要だからと声がかかってうまれてはじめて仙台にきました。2011年の1月まで経理をされていて区切りがついたという事でスタジアム部に配属となりました。

チームの状況

あらたなプログラムで2013年はスタートしており、交流戦は好調にスタート、今のところ順調な成績です。ただ、今年のチームは打率がいいが、防御率がリーグ最低と課題がはっきりしています。毎年のことですが、交流戦はパ・リーグが勝ち数が多くなります。その要因としてはパ・リーグの指名打者の成績がセ・リーグを圧倒していて、(セ・リーグの指名打者はレギュラークラスではない可能性が高い)パ・リーグのほうが戦力的に優位だからとではないでしょうか。

楽天野球団の誕生

さて、みなさんの方が良くご存じかもしれませんが、楽天の誕生についてはいろいろなことがありました。2004年9月24日に加盟申請を行いその三日後には仙台に準備室を立ち上げましたが、電話が鳴りやまず夜ひっそりと仕事をしたという話も聞いています。そして、11月2日に参入が決定、実に50年ぶりの新球団誕生となりました。そこ

から約4ヶ月で球場改修を行い2005年3月26日に千葉で開幕戦を迎え、ロッテに3-1で記念すべき初勝利をあげました。しかし、翌日には屈辱的な大差での敗戦となかなか安定した戦いが出来ずに、初年度は大きく負け越しての最下位でした。

基本理念について

私達は、基本理念として「野球を通じて感動を創りファンや地域のも名様に、夢を与えることを目指します」と定めています。それをもとに今年数年間を乗り切るためのミッションをきめています。それは「ファンに愛されファンを愛すること・東北代表としての誇りをもつこと・常勝軍団としてあきらめない野球をすること・試合に関わる全ての人には尊敬しあう家族であること・全力プレーで勝利をつかむこと（一生懸命が勝利につながる）・目標達成のために努力以外に近道はないこと」の6つです。また、その実現のため三位一体の経営方針があり「強いチーム、健全経営、地域密着」が大切だと考えています。特にその中でもポイントは地域密着です。

楽天イーグルスのめざす姿は「ファンや地域にとってなくてはならないものになる」であり、そのためには、地域・ファンと球団の距離をちぢめることが大事になります。具体的には各ライフステージごとに楽天イーグルスと密着する取り組みや、球団と地域がウィンウィンの関係になるため「互いに協力し互いに利益」を得る事が必要になります。

地域密着活動の実績

地域密着活動の具体的な内容ですが、まず「野球塾」が2012年の実績では年間109回実施され、約7,000人の子供たちが参加しています。これは小中学校の子供たちに元プロ野球の選手が基礎的な指導をするもので、東北各地で開催しているものです。次に「未来塾」があり、元プロの選手やゴールデンエンジェルスが小学校を訪問し講演などを行うもので、2012年は年間80校、約7,700名の実績があります。フレンドシップ・ジャーニーという取り組みは、地域の幼稚園・保育所などにチームのマスコットキャラクターであるクラッチ・クラッチーナが訪問するもので、これも2012年には62園、約8,200名の実績があります。また、東北各地の球場に「楽天イーグルス」の名称とロゴをつけていただき、そこで野球教室などを行うフィールド・サポート・プログラムという取り組みでは、東北6県に14ヶ所まで増えています。

次に被災地招待活動として、今も苦勞されている被災地の方々をホームゲームに招待しており、2012年は709名をご招待しました。また、ワッペン・ステッカーの販売収益金や球団からの寄付などを集めて義捐金寄付を行い、こうした取り組みに対し宮城県より表彰も受けました。南三陸で復興支援試合を2年ぶりに開催し、2,525名の方々に来場いただきました。



ボランティア活動について

いよいよボランティアの活動についてですが、楽天イーグルスがスタートした2005年から活動が始まり、2013年で9年目を迎えています。球団がボランティアに求める事は「球団とファンをつなぐ存在」であり、地域とつながる貴重な存在ととらえています。昨年まではエコの分別活動がメインでありまた、ジェット風船回収・ドリームシートや座席案内なども行ってきましたが、残念ながら登録数は2006年の300名（一試合平均50名）をピークに減少し2012年では過去最低の178名となってしまいました。結果として特定の方々に依存した活動となっていたこともあり、オフシーズンに改善について検討し今年は活動時間の明確化をはかり、活動内容も広げ、またボランティアブースを設置するなど見直しました。

次にごみの排出量ですが、2012年では約260t、一試合あたりでは3.5tのごみが出ており、分別回収の取組により年間で約31tのCO₂の削減ができました。現在抱えているボラ活動の課題としては、「年齢構成バランス 若い比率があがらない」こと、「活動プログラムの固定化による慢性化」などに対し、ボランティアスタッフの活動の場をエコステーションだけではなく、見直しを行うことで次の世代への働きかけをすることが不可欠になっています。

2013年の地域密着活動

東北の皆様にも愛されるチームに成長し真の「東北の球団」になることをめざし、「東北ろっけん活動」がスタート、1月から3月だけでも東北6県で88ヶ所を訪問し11,392名の子供たちと触れ合いました。また、球界初のアンバサダーとして草野大輔が就任、積極的に各地を訪問しています。

最後に

2013年のボラ活動についてですが、多くの方にとってボランティア活動は楽しんで参加するものだと考えています。しかし、実際には固定メンバーや活動負担の大きさにより、決して楽しいといえない状況もあると思われます。まず今年は試合後のエコステーション活動の見直しとして8回表、9時の早いほうで活動を終了することで、活動負担の軽減を図ったほか、社会貢献活動を試合日に限定せずに取り入れていきたいと考えています。具体的には活動領域の拡大 ボランティアブース、球場清掃、花壇整備などですが、現状では登録数183名、一試合平均活動者数平均41名と成果がでてつつあります。今後はごみ分別PR動画を制作するほか、新たな活動としてピンバッジトレーディングなども行います。ぜひ、今後とも楽天イーグルスへのご支援、御協力をよろしく願いいたします。



【 文責 泉田 】